

◇ 新刊紹介

## 福井県窯業誌

——二〇年に及ぶ一大労作——

縄文時代から現代に及ぶ本県窯業の歴史の集大成ともいえる『福井県窯業誌』が、このほど同誌刊行会から発行された。本誌の刊行事業は、昭和三九年県窯業振興協議会の肝入

りで開始され、さらに四八年からは県窯業協同組合連合会が引継いできたもので、越前古窯研究家の水野九右衛門氏（前県立丹生高校教頭）と地域史・地誌研究家の山口信嗣氏（県立武生高校教諭）に、資料収集調査及び執筆を依頼して、二〇年に及ぶ歳月を費いやし、ようやく完成した一大労作である。

九五八ページ（B5判）の大部なもので、そのうちカラークラビア三二二ページ、モノクログラビア三二二ページをあて、県下各地から出土した縄文・弥生時代の焼き物から、その後現代に至るさまざまな作品の美しい貴重な写真がいっぱい収められる。

## (三上一夫記)

まず本文の第一編「原始から近世」の構成・執筆・編集は水野氏が担当し、第一章原始、第二章古代、第三章中世、第四章近世に大別し、これらの時代区分ごとに、さまざまな土器の特質や発展過程につき、数多くの図表や写真等により、精密かつ詳細な分析・考察を行っている。

つぎに第二編「近代以降の窯業」の構成・執筆・編集は山口氏が担当し、第一章陶磁器産業、第二章瓦産業、第三章その他の窯業、

第四章窯業振興への努力、第五章窯業技術の進歩、第六章協同組合の沿革と区分する。そして陶磁器・瓦・その他の窯業の三つを柱とし、それに県窯業施策の発展過程、技術の進歩、関係組合の沿革等につき、これまたさまざまな図表や写真等により、きわめて精力的かつ精密な検討を試みている。さらに第三編「資料」を付記し、種々の関係統計・年表・それに古窯址所在地名一覧や生産団体にかかわる諸資料をまとめている。

近年越前土着のきわめて香り高い文化として、全国的にも格別の評価を受けつつあるが、このさい専門家の水野・山口両氏を中心に、県窯業協同組合連合会加盟の各組合や県窯業試験場、県文化課の協力を得て、本県窯業の歴史過程を一本に集大成した意義は、はなはだ大きいものがある。こうした専門書と教養書を具備する本誌の刊行は、早くも県内外の各界各層の間から大きな反響を呼び起している。

(同)

(領布先、丹生郡宮崎村小曾原四〇、  
県窯業誌刊行会事務局、一五〇〇部限  
定版、年内予約価格一六、〇〇〇円)